

リーダーズフォーラム

第1部【トークセッション】

未来の教室実現に向けたEdTechの活用法

6月4日、私塾界主催による「リーダーズフォーラム2018」が都内で開催された。4部構成でおこなわれた今回のフォーラムのテーマは「英語×ICT」。全国各地から約450名もの教育関係者が集い、学びを深めた。第1部は「未来の教室実現に向けたEdTechの活用法」と題し、経済産業省 教育産業室 室長の浅野大介氏、株式会社COMPASS CEOの神野元基氏、株式会社メイツ 代表取締役社長の遠藤尚範氏がトークセッションを繰り広げた。白熱した議論の様子をレポートする。

公と民を交える経産省の画期的な取り組み

まずは経済産業省 教育産業室の浅野大介室長が、同省での取り組みを紹介した。

「経産省では昨夏に『教育産業室』を創設し、本年



経済産業省 教育産業室 室長 浅野大介氏

これからの時代に必要な力は、自分で課題やテーマを見つけて一歩を踏み出す『50センチ革命』。多様な分野の知識や技能を横断的に仕入れて使いこなす『越境』、失敗にめげずにあれこれと試して成果を生み出す『試行錯誤』です。

世界の経済大国でも同じ問題意識です。各国に共通するキーワードは「学習の個別最適化」「プロジェクトを通じた文理横断型の知識理解と応用」「EdTechの活用」です。

1月からは『未来の教室』とEdTech研究会での議論を始めました。「創造的な課題発見・解決力」を育む教育を可能にするために、公教育と民間教育の垣根のない学習者中心の「学びの社会システム」を、EdTechを活用して作りたい。」

教育産業室ではこれまでにワークショップを5回開催し、約130名の方々に参加してもらいました。中高生から「昔は、なぜ勉強するのか理解分らなかったが、今の学校では自分のプロジェクトがあるから、学ぶ理由がわかる」という意見をもらい、あらた

めて気づきを得ました。そして、「学びの生産性」を高めるためには「個別最適化」が重要です。そのためには1人に1台PCがある環境は最低限のインフラですから、何とか早期に整えていきたいと考えています」

続いて、株式会社COMPASSの神野元基CEOと株式会社メイツの遠藤尚範代表取締役社長を交え、トークセッションがおこなわれた。

神野 産業はこの100年で激変しましたが、教育はほぼ変わっていません。私にはそこに課題を感じ、何とか教育改革の役に立ちたいと考えています。教育産業室が開催したワークショップには3回参加しましたが、国がこうして主導するのは初めてではないかと感じると同時に、非常にモチベーションが高まりました。

そして子供たちの「モチ

ベーションを上げるための個別最適化」と「コンテンツの効率化」アダプティブラーニング」の2つが大切だと考えており、私たちは後者のほうに取り組んでいます。

遠藤 私は2010年に塾を創業し、2013年にはタブレットを導入しました。現在は15教室に約1000名の生徒が通っています。塾の立場からすると学校がどう変わっているかを非常に注視しているのですが、英語4技能や主体的な学びはタブレットで開発できると考えています。

公と民の役割分担についてはいかがお考えですか？

浅野 教育を変えるには民間教育の力が不可欠です。塾であれば、いろいろな取り組みができるはず。それを後押しするために経産省は「未来の学校」というプロジェクトを立ち上げました。塾だけでなく学校も巻

き込みながら、新しい取り組みをしていきたいと思えます。

神野 現代は「受験志向」と「学歴懐疑」のダブルスタンダードになっていると



株式会社COMPASS CEO 神野元基氏



株式会社メイツ 代表取締役社長 遠藤尚範氏

感じています。STEM教育に取り組む塾も出てくるなど、民間は公教育よりも変化が早いと感じています。いま、文科省が変わ

ろうとしています。その背骨あるのは枠内で力を発揮するのが塾の責務であり、そこから逸脱すると押しつけになるような気がしています。

浅野 塾はそんな狭い「枠」を超えてみてはどうですか？

神野 確かに枠も大事ですが、保護者が求める教育も大切ではないでしょうか。多くの保護者は次なる教育を求めているように思います。

チェンジメイカーを生み出すためにはどうしたらよいでしょうか？

浅野 課題解決プロジェクトのような、何かしらプロ

ジェクトを動かす教育が必要だと思っています。

遠藤 それは何歳ぐらいから指導することを想定していますか？

浅野 2〜3歳ですね。遊びの場からでも、チェンジメイカーは出てくるはずですが、半端に終わった「ゆとり教育」ですが、今度は本気でやろうよ、ということですね。

神野 チェンジメイカーを生み出すには、自己肯定感が重要なテーマだと思います。それをいかに高めるかが直近の課題だと捉えています。

遠藤 浅野さんが先ほど言われたプロジェクト教育は、アクティブ・ラーニングと何が違うのでしょうか？

浅野 同じですね。

遠藤 2〜3歳でプロジェクト教育は少し早いように感じます。高校や大学で導入してはいかがでしょうか？

